

小児領域におけるドラッグロス・ドラッグラグの
現状と課題を考える

第
18
回

日本小児医療政策研究会

開催日 2025年10月25日(土) 13:00-16:05
会場 浜松町コンベンションホール 6階「大会議室B」
会長 大石 公彦 (東京慈恵会医科大学 小児科学講座 教授)
対象 医師、看護師、栄養士、保健師、製薬企業、患者の会等 医療関係者

プログラム

プログラム進行：大石 公彦 (東京慈恵会医科大学 小児科学講座 教授)
鈴木 麻也 (九州大学病院 小児科・ARO次世代医療センター)

13:00-13:05 開会挨拶・趣旨説明

大石 公彦 (東京慈恵会医科大学 小児科学講座 教授)

13:05-13:25 日米の臨床経験からの視点

- 鈴木 麻也 (九州大学病院 小児科・ARO次世代医療センター)
「こどもたちに最適な治療を届けるために：
日米の小児がん診療現場から見た薬剤アクセスの課題」
- 大石 公彦 (東京慈恵会医科大学 小児科学講座)
「治療法はある、でも“届かない”という現実：日米の小児科医として見た風景」

13:25-13:40 患者・家族からの視点

- 柏木 明子 (ひだまりたんぽぽ：有機酸・脂肪酸代謝異常症の患者家族会)
「新しい治療法も情報も届きにくい 希少疾患からみた“つながる力”の重要性」

13:40-14:10 行政からの視点

- 安中 健 (厚生労働省 医薬産業振興・医療情報企画課長)
「日本における小児医薬品政策の現状と今後の方向性」

14:10-14:30 休憩

14:30-15:00 アカデミアの視点

- 中村 秀文 (国立成育医療研究センター)
「アカデミアにおける開発推進の取り組みと今後への展望」
- 中村 治雅 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床研究・教育研修部門 臨床研究支援部 部長)
「ドラッグラグなく日本から薬を作るために小児筋疾患領域での開発事例について」

15:00-15:15 産業界の視点

- 香西 麻里子 (日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 臨床評価部会)
「小児用医薬品開発の現状と今後の開発促進に向けて」

15:15-16:00 パネルディスカッション

モデレーター：大石 公彦

パネリスト：安中 健、中村 秀文、中村 治雅、香西 麻里子、鈴木 麻也、柏木 明子
- ドラッグロス・ドラッグラグの現状のさらなる理解に向けて
- 行政・アカデミア・企業の連携のあり方
- 会場・視聴者からの質疑応答を含む

16:00-16:05 閉会挨拶・まとめ

衛藤 義勝 (日本小児医療政策研究会 代表幹事)

後援：NPO日本リソゾーム病研究センター

事務局：(株)SKアベックスプラン内 〒104-0041 東京都中央区新富2-4-14 新富田所ビル4階

TEL: 03-3523-3722 e-mail: info@skap.jp

